

防衛大学校同窓会機関誌

小原台だより



Vol. 5

平成10年1月1日
発行 防衛大学校同窓会

編集 荒 義和 稲垣純通
小野寺功 志岐浩一 古川洋
印刷 (株) エイコープリント



ご挨拶

防衛大学校 同窓会会長

小西 岑生

全国各地で活躍しておられる同窓生の皆さん、新年おめでとうございます。海外で多様な任務に従事しつつ新春を迎えられた方も多勢おられると思います。また、防大卒業後母

国に帰り重要な任務についておられる同窓生も多数にのぼります。一万八千余の同窓生の今後益々の御発展と御健勝を心から祈念申し上げます。

さて、昨年の本紙でも触れましたが、同窓会は会員数の拡大と会員構成の変化に対応するため、事業推進委員会の答申を基本に活動内容を逐次拡充すべく努力を続けております。

本部は昨年小原台から六本木の東京分室に移りましたが、その後市ヶ谷への再移転の話が急浮上し将来の便宜さを考慮して夏に再び市ヶ谷駐屯地正門前の共済組合の建物に移動しました。維持費の関係もあって十分なスペースがあるとは言えませんが、10名程度の会議ができる部屋も確保してありますので期生会等の打ち合せ等に活用して下さい。

なお、本部の東京移転に伴って従来防大の開校記念祭に合わせて横須

賀で開催していただきました同窓会の総会及び懇親会は、年度末に東京で行うこととなりました。細部は別途御案内致します。

支部組織の充実に関しましては、昨年関係者のご尽力により北海道、西部、沖縄の地域支部が発足し、広島、熊本の地区支部も設立された他、小原台クラブが本部直轄の支部となりました。今後環境が整い次第逐次

支部の充実を推進して参りますが、特に組織が確立されていなくても地域における同窓生の絆を強めるべく会員の皆さんが積極的に動いて下さることを期待しております。

この他に同窓会本部の企画として昨年夏に期別対抗のゴルフ大会（1期から7期対象）を実施しました。参加者からは大変好評を頂き今年は8期生までを対象に計画することとしております。なお、この企画に松本防大校長から立派な優勝カップを頂戴しました。

また、4月に予定されている防大の短艇競技には、学校からの申し入れを受けて同窓生で1クルーを編成、

女子学生クルーと競う計画で準備を進めています。この種の企画は可能なものから推進して参る所存ですが、当初はどうしても東京地区に偏ることとなりがちですので各地域においても可能な企画を取り上げて実行して頂きたいと思ひます。

今年と同窓会名簿を新たに作成する予定にしております。名簿の精度を高めるため各期生会のご協力が不可欠ですので宜しくお願ひします。本部における名簿管理も関係者の努力によってかなり充実して参りました。クラブ活動別の名簿等は比較的簡単に取り出すことが可能ですので活用して頂きたいと思ひます。

最後に、防大創立50周年記念行事に対する同窓会の取り組みについて特に申し上げたいと思ひます。既に実行委員会から同窓生各位に募金のお願ひが届いている筈ですが、この成果は同窓生の母校への熱い想いにかかっていると云えます。計画の細部は別に掲載しますので、ご意見を賜ると共に積極的なご協力をお願い致します。各理事、本部事務局の各班は、同窓会活動の活性化のために正に奉仕の精神を持って取り組んでおり、本年も一層の充実発展を目指して努力して参ります。20世紀も残り僅かとなった新しい年が同窓生の皆さん一人一人にとってより良い一年であることをお祈り申し上げます。

目次

会長挨拶

防大の現況と将来……………1

防大創立50周年記念事業……………3

中期事業計画について……………6

第一期別対抗ゴルフ大会……………8

21世紀でのふれあい……………10

期生会だより……………11

平成8年度同窓会決算報告……………14

平成10年度同窓会予算……………15

事務局からのお願ひ・お知らせ……………16

小原台今昔物語

表紙

初代「榎学長の胸像」の前で語らう学生達

防大の現状と将来



昭和63年度以来の2人部屋が、平成9年9月から4人部屋に移行することとなった。

部屋編成の変遷は、旧学生舎（1～5号学生舎）時代には、学年混合の8人部屋編成であったが、昭和52年度から新学生舎が増設され、4人部屋編成に移行した。

昭和56年度には、各学年に必ず補導の推進、向学心の養成のねらいから、従来の学年混合中隊から学年別中隊に学生隊編成が変更され、それに伴い部屋員構成も同学年4人となった。

学年別中隊となったことにより、同期生間の切磋琢磨及び上下級生間の交流が低調となり、その解決策として、昭和61年度から学年混合中隊（小隊は同一学年）とした。

昭和61年度には、募集難等を反映した、いわゆる「魅力化」施策が掲げられた。その一環として、学生居室の改善により日常生活のゆとりを確保し、休養・安らぎの場として相応しいものとするため、居室を自習室・寝室兼用とし、部屋構成を同学年2人とするにとした。昭和63年度から平成5年度にかけて学生舎の内部改装が行われ、逐次2人部屋体制へと移行した。

2人部屋編成への移行が進む中、平成3年度には、リーダーシップ・フォロアシップの育成を重視し、それまでの学年別小隊編成から学年混合小隊編成とした。2人部屋の室員構成は、同学年のままとするかわりに、ブロック制度（4部屋を1ブロックとし、各ブロック毎に4学年のブロック長をおく）をとり、上下級生の交流がしやすい環境とした。

上記のように変遷をたどってきた学年混合小隊・同学年2人部屋編成であるが、最近の国際平和協力業務や災害派遣活動を通じて自衛隊に対する国民の理解と期待が高まっている中、校内はもとより部隊等からも、リーダーシップ、ミリタリーマインドといった面での更なる資質の向上が期待されるに至った。このため、学生舎生活の本来の意義である規律ある団体生活を通じての自己陶冶を実践させる上で、勉学の場合及び修養・切磋琢磨の場としてのあるべき姿を検討し、所要の措置を講じることとなった。

検討の結果、自習室を神聖な勉学の場とし、生活に「けじめ」をつけさせる上で自習室と寝室を分離するとともに、上下級生同室による緩やかな緊張の下での生活を通じ、修養（徳育の体得）に努めさせることとし、4学年部屋長のリーダーシップを期待する学年混合多人数部屋編成が適当とされた。2人部屋編成に移行を開始して約10年が経過した今、学生舎の各居室のスペースの現状を考慮し、4人部屋編成をとる事となった。

平成9年9月に第4大隊が、10月に第1・第3大隊がそれぞれ試行を開始したばかりである。

第411小隊 航空要員 第2学年 大城朝輝

「最近の防大生はたるんでいる」と言われるようになって久しい。プレスしていないよれよれの常装で町を歩き、酒に酔って電車の中でくだを巻く。それを見た市民やOBの方は嘆き、「防大はどうなってしまったのだ」と呟く。いったい防大生は何を期待させているのだろうか。

「組織」はある目的のために造られるわけで、その成員が同じ目標、課題意識を持って初めて、当初の目的の達成に向けて前進することができる。今の防大に欠けているのはまさにこの点である。

防大に入校した時点で防大の存在意義を考えた人が果たして何パーセントいるのだろうか。あるいはおぼろげながら淡いイメージを抱いて入校しても、何ら具体的に示してもらえず、確固たる方針がつかめないまま、時の流れるまま無為に過ごしてしまった学生が大半ではないだろうか。我々は、この組織としての大前提を見失っているという点で、すでにスタート地点で大幅に後れてしまっているのである。

世界の士官学校で二人以下の小人数部屋が主流となっている今、なぜ防大で4人部屋なのか。自主自律を叫ぶ前に、まず我々一人一人が、防大生という自覚を取り戻さなければならないのである。

第431小隊 海上要員 第4学年 稲葉忠之

防衛大学校では、今期より二人部屋制度から4人部屋制度への移行を実施しています。第4大隊では、1、2、3大隊に先駆け、夏季休暇明けに移行を完了し早2か月が経過しました。移行前には、数多くの意見が挙げられ、防大全体が渦中に置かれていましたが、移行後2か月を経てようやく生活環境に平静さを取り戻しました。

この制度の実施により、今まで以上に上下級生が互いにふれあう時間が増え、4学年が部屋長としての責任を自覚し、リーダーとしての素養を涵養するにふさわしい基本的環境が備わったように思えます。

しかし、善悪に関わらず、4学年の行動の全てが下級生に反映されると同時に、上下級生間のふれあいが増加し、その関係が馴れ合いとなってしまう等の問題も生じています。

現在、一般社会においては自己中心的な人材が渦巻いていますが、今回の4人部屋制度への移行を機に、こういった人々とは異なった誠実な人格を身につけ、常にリーダー足るべく人物を育成しうる場を防衛大学校に芽生えさせるように、まずはその環境の整備に努めたい。

4人部屋に移行しての学生所感

第441小隊 第1学年 筒井慎之介

私たち1学年も防大に入校して半年経ち、ようやくここでの新しい環境に慣れ始めてきたかと思うと4人部屋への移行とまた環境があわただしく変化した。それで、最初は4人部屋への移行に対し抵抗を感じたのは確かである。今、実際に4人部屋で生活しているわけだが感想を述べると決して悪いものではなく、最初の不安が嘘のようである。4人部屋の利点を挙げてみると、上級生との人間関係が広がった、つまり縦の関係に慣れる場ができたこと、それから4学年の方のリーダーシップをとる機会が日常生活において増えたことがある。これは防大生が防大らしく振る舞える環境が確立されたことを表している。

過去において二人部屋に移行した理由として、個人のプライベートを重要視する社会に同調するためだということを聞いたことがある。それを考えると一見、今回の4人部屋への移行は時代錯誤したものに思える。しかし、今日の社会では、人々は他人と協調することを忘れてしまっていると言われている。その中で4人部屋への移行は、その協調性を取り戻すという点から見て時代錯誤しているというよりも、時代に沿った、いやその先を進むものではないだろうか。この機会に同じ部屋の上級生に学びながら躍進していきたい。

第433小隊 陸上要員 第3学年 松本公平

我々が4人部屋に移行して約2か月が過ぎようとしている。思えば、4人部屋の移行は我々にとってまさに「寝耳に水」の知らせであり、誰もが皆、驚きと不安、そしてなぜ今頃4人部屋に移行しなければならないのか、という疑問の気持ちで一杯だった。

それでも私の所属する第4大隊では、他大隊に先駆けて9月から実施の運びとなり、現在に至っている。

さて、4学年から1学年までが一緒に生活する4人部屋は、これまでの二人部屋と異なり、各学生のより一層の自覚ある行動が求められると思う。なぜなら、同期同士の二人部屋だといいい加減になりがちだった生活が、上下級生が互いに切磋琢磨し、上級生は下級生の良き模範となり、下級生がそれに良く従う生活に変わるからである。

まだ移行して2か月ということで、これから先色々な問題が生じるだろうが、当初の頃の様な不安はないし、一つ一つ解決してゆけば良いことである。現に先輩方はそうやってこれまでの伝統を築いてこられた。我々もこれにない、自分達で試行錯誤しながら、新たな防大の伝統を築いてゆきたいと思う。



総合安全保障研究科

日本の社会が高学歴化するとともに、自衛隊の任務の多様化及び国際化に伴い、幹部自衛官等が職務を遂行する上で安全保障、国際法等に関する専門知識、国際政治及び地域研究に関する識見及び能力が必要になってきた。

各自衛隊においては、社会科学に関するポスト・グラジュエイトは国内留学又は国外留学に依存していたが、国内の大学においては安全保障の分野の一部を副次的に教育研究しているにすぎず、また、海外留学による安全保障の教育は留学先の国情が反映されることとなるため、教育内容をそのまま我が国の状況に当てはめることができないという問題があった。

このため、防衛大学校において国防や戦略に関連した安全保障に関する体系的かつ理論的な教育を行う必要があるとして、防衛庁設置法の改正により平成8年度10月総合安全保障研究科を開設し、翌年(本年度)4月、第1期生22名を受け入れた。

国際士官候補生会議

学生の国際交流の機会を増やすため全学生が参加可能な国際会議を開催し、学生相互のプレゼンテーション及び議論を行うとともに、本会議を全学生に傍聴させ、また、会議以外の場でも交流することで、学生の

国際的視野の拡大、国際情勢の認識及び語学力の向上に資し、各国と我が国の安全保障に係る相互理解の促進に寄与させることを目的として、平成9年度から防衛大学校において国際士官候補生会議を開催することとした。

第1回会議は、平成10年3月の8日間に、米国、イギリス、ドイツ、フランス、韓国、タイ、フィリピン、インドネシア、マレーシア及びシンガポールの10か国からそれぞれ1名の士官候補生を招聘する予定である。

短期留学

昭和48年度に米国三軍士官学校への派遣が開始されて以来、徐々に派遣を増加し、平成9年度までに米国三軍、フランス陸軍、カナダ統合軍、タイ三軍、シンガポール国軍、韓国三軍、ドイツ国防大学・陸・空軍及びイギリス三軍への派遣が予算化され、現在16名を約2〜3週間諸外国士官学校等に派遣している。

また、昭和59年度には米国海軍兵学校の主催する「国際情勢研修会」に学生の派遣を開始し、平成9年度には米国陸軍士官学校の主催する研修会にも学生を派遣することとなった。

国際防衛学セミナー

我が国及び諸外国の軍学校、一般大学の教官、研究員を対象として、防衛学の教育・研究の充実、発展及び安全保障に係る事項の相互理解、相互啓蒙を目的として、平成7年度から毎年実施している。今年度で3回目であり、過去1、2回ともそれぞれ十数か国の参加を得ている。



防衛大学校は、将来、幹部自衛官となるべき者を教育訓練する機関として、昭和27年に設立され、平成14年(2002年)には創立50周年を迎える。

この50周年を記念して、記念事業を実施することを計画し、既に検討が開始されている。記念事業としては、以下のものがある。

- ① 施設整備事業
- ② 電算機の利用による全学的な情報システムの整備
- ③ 歴史資料、卒業生の足跡等を展示する資料館の設置
- ④ 50年史の編纂

施設整備事業

防衛大学校の現有施設の大部分は、創立当初の昭和30年代に建設されたものであり、40年を経過した今日では経年変化及び塩害による老朽化が著しく、かつ狭隘化が進んでいる。

再整備は、予算制約等の事情から逐年、計画的に進めざるを得ず、これまで理工学館等の大規模改修を行ってきたところである。

創立50周年を迎えるにあたり、本部庁舎、人文科学館、講堂、図書館、給水塔等、本校の管理機能や全校的支援機能を果たす諸施設が集中する中央部地区を統一的概念の下に、かつ長期的視野に立って、建て替え整備を行う。

情報システムの整理

従来の書籍等を中心とする図書館の機能に加え、電子図書、グラフィック及び音声・ビデオ情報等各種のメディア情報を統合し、通信・処理機能を取り込んだ総合的な教育支援施設、すなわち電子図書館を指向したシステム環境を整備する。

また、将来、ネットワーク化が常識になると思われる社会において、防衛大学校も学生に対する情報教育のあり方を確立するとともに、学生含ネットワークの充実やマルチメディア情報教室等の情報教育を支えるインフラストラクチャーを整備する。

資料館

学生に防大生たるの誇りを持たせ、士気を高揚させ、精神面で感化を与え得るような訓育の環境を整備し、併せて広報拠点とすることを目的とし、歴史・現状及び卒業生の足跡等を展示するものとし、整備にあたっては、同窓会とも連携をとりつつ、今後検討していく。

50年史の編纂

50年史の編纂・刊行については、資金面の措置を含め、同窓会と調整しつつ検討を進めていく。



155mmりゅう弾砲 FH70

国の安全と平和に
寄与する技術

素材とメカトロニクスの総合企業
JSW 日本製鋼所

東京・日比谷三井ビル ☎3501-6111 (大代表)
ホームページ: <http://www.jsw.co.jp>

防大同窓会
五十周年記念事業
委員長 佐久間一

平成14年に予定されている防大創立五十周年記念事業に対する防大同窓会の協力につきましては、御承知のとおり、昨年度の同窓会の評議員会及び総会における承認を経て、本年度から同窓生への募金活動を開始しました。現在までの成果について御報告致しますとともに今後のさらなる御協力をお願い致します。

1 募金状況

記念事業委員会では、防大五十周年記念事業についての基本構想と募金に対する協力依頼を内容とする趣意書を作成し、本年4月に1期生から7期生、6月には8期生から41期生の同窓生の皆様に、それぞれ送付致しました。

その結果、本年10月末までに寄せられた拠金の総額は約4600万円であり、拠金率は約20%に相当しています。なお各期別の拠金状況は別表のとおりです。

また、拠金の振込用紙の通信欄に記載された様々な御意見は何れも貴重なものと受け止めており、小原台上に同窓生の夢を実現して欲

しいという熱い想いや、来年退官を予定されている現役の同窓生がOBとしての拠金も併せて送付された事実には、深い感銘を受けました。一方、募金要領に対する疑問を提示された方には、しかるべきご説明をしたいと考えております。

2 拠金の管理

募金に応じて頂いた方々には、受領確認の葉書を送付するとともに各期別の名簿に入金状況を個人毎に記録しております。なお受領確認の葉書の送付は、7期までのOB会員についてはすべて終了しておりますが、8期以降の会員については事務処理能力の関係で逐時処理せざるを得ない状況にありますが、どうぞご了承下さい。

また現在迄に寄せられた拠金は第一勧銀に定期口座を設定してそのほぼ全額を預金致しました。この記念事業は同窓会自身の事業であることから、募金活動のための印刷費、通信費等は同窓会の経費として処理し、同窓生の浄財の使途は記念事業に直接必要な範囲に限定する事を方針としております。

3 記念事業の内容

同窓会としての記念事業の構想については既に送付した趣意書の中で御説明したところですが、募金状況の見通しを得た時点で具体的な計画を作成する事としております。

募金活動については、事業内容

を確定してそれに基づいた募金を行うべきとの御意見も承知しておりますが、事業内容について幅を持った構想を提示した上で募金を実施し、その成果に応じて事業の内容、規模を定めるという方策を採用する事が同窓会としての事業の性格から最も現実的な道である点を御理解戴きたいと存じます。

また防大自身による施設の整備は、財政事情厳しき折多くの困難も予想されますが、モニユメント設置に最も適した多目的講堂（記念ホール）は、平成13年度末に完成するよう計画が進められております。

4 募金協力へのお願い

先に述べました同窓生への趣意書の送付数は約1万6千通であり、その処理作業の主体は防大勤務の同窓生の勤務時間外における努力によるものであります。しかし、趣意書の中で募金活動の重点を平成9年度とのみ記して募金期間を明示しなかった事、また振替用紙の入れ忘れ、宛名の誤記等のミスのために、現在まで拠金の機会を得られなかった同窓生に対して、記念事業委員会として真に申し訳なく思っております。

この記念事業の意義と趣旨については、既に前回の「小原台だより」や趣意書を通じて申し上げてきたところですが、母校の創立五十周年という節目に同窓生の想いを具体的な形で表わすとともに後

輩達に未来への希望を与え、さらに防大同窓会の団結と力を示すという意味で、是非この事業を成功させたいと念願しております。繰り返しになりますが、募金目標は2億円で、防大同窓会の募金基準は一口1万円でOB会員は2口以上、現役会員は1口以上であり、同窓生の募金は平成9年度末をその期限にしたいと考えております。よろしく御協力、ご支援の程お願い致します。

(平成9年11月 記)

注1

振替用紙が手元にない方で拠金される方は、お手数ですが次の口座を御利用下さい。

郵便局振替口座 口座番号 00150-6-352140
加入者名 防大50周年記念事業委員会

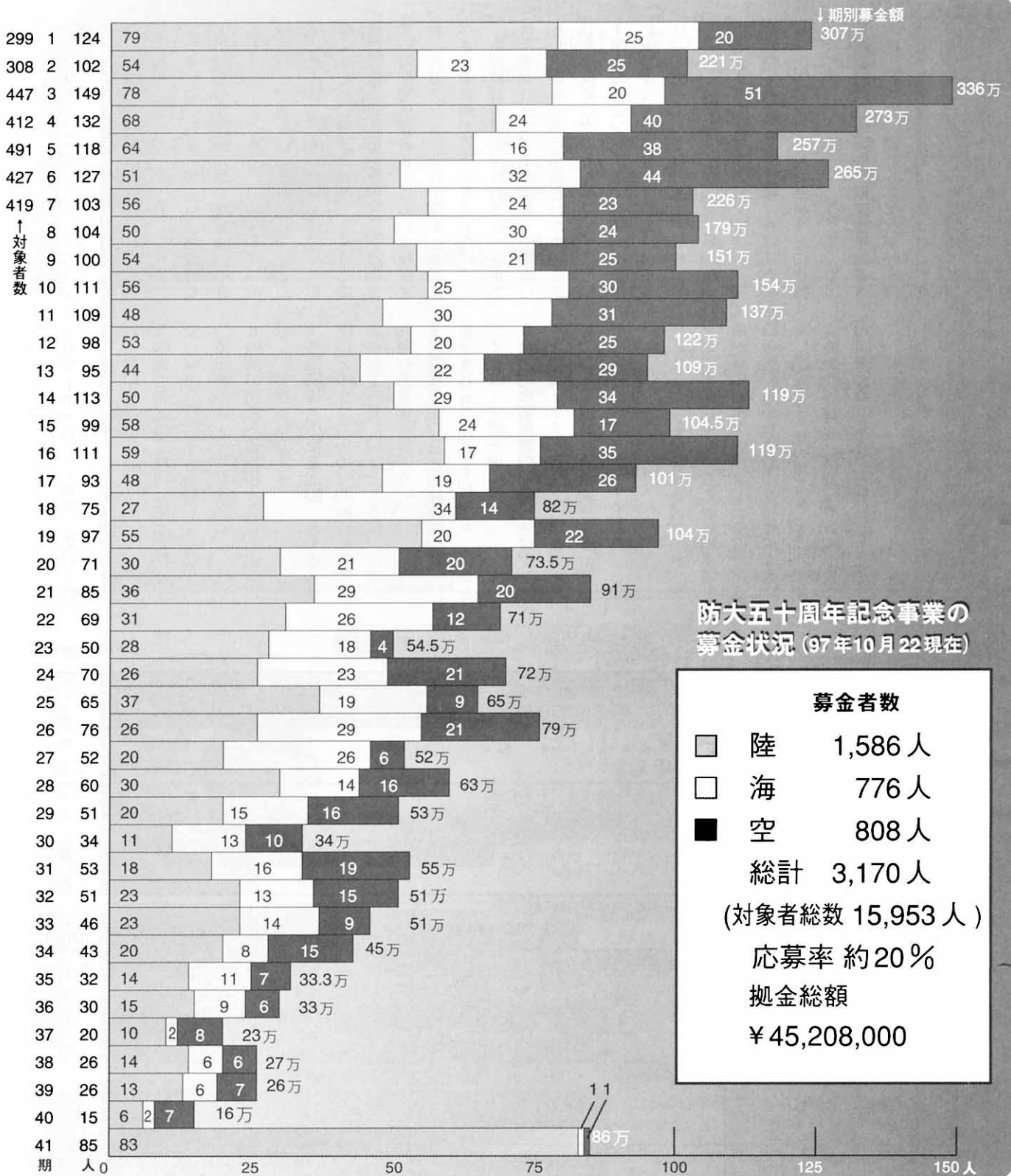
注2

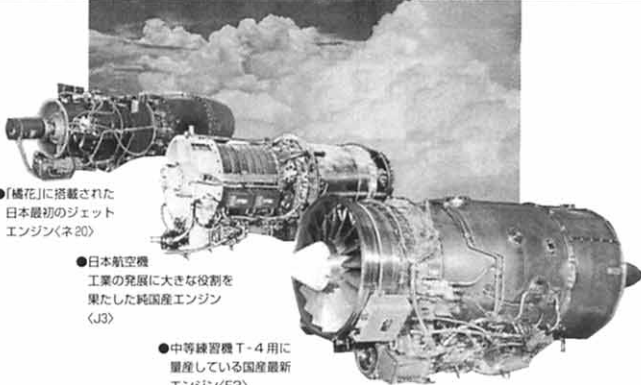
記念事業委員会に対してお問い合わせ等は、次の連絡先にお寄せ下さい。

〒160-0003
東京都新宿区本塩町21-3-2 共済1号館
防大同窓会本部内 50周年記念事業委員会
TEL 03-3351-8910

防大 AEROSPACE

富士重工業株式会社





たしかな技術と実績

日本の夢を追い続けた半世紀です。

- 「橘花」に搭載された日本最初のジェットエンジン(ネ20)
- 日本航空機工業の発展に大きな役割を果たした純国産エンジン(J3)
- 中等練習機T-4用に量産している国産最新エンジン(F3)

IHI

石川島播磨重工業株式会社

航空宇宙事業本部

〒100 東京都千代田区大手町2-2-1(新大手町ビル) 電話 03(3224)5333

中期事業計画

について

事業部長 吉成 碩之

防大同窓会の今後あるべき姿及び長
 中期的な事業計画の基本構想は、平成
 6年1月から7年7月までの間に検
 討された「将来構想検討委員会」(志
 摩 篤委員長)並びにその構想を具現
 化するために設置された「事業推進委
 員会」(平成8年3月から8年11月ま
 で・阿部博男委員長)において検討さ
 れ、同窓会として今後中期的に実施す
 べき事業計画が答申されました。
 上記検討委員会で検討され、答申さ
 れた事業計画に、その後若干の見直し
 をし、理事会等で承認された中期事業
 計画の概要は次のとおりです。

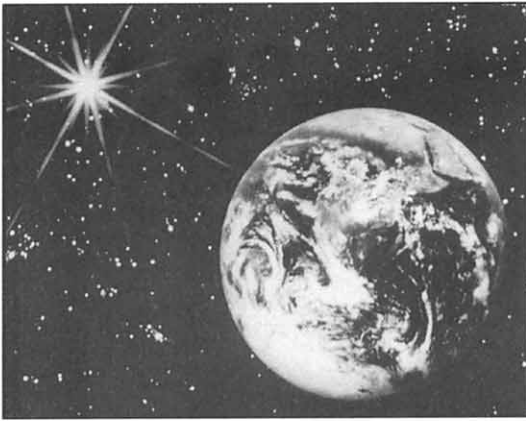
- 1 ホームカミングデーの実施 卒業後45周年をへた同期生一同が母校に集まり、旧交を温めるとともに、母校・学生との交流を図るもので平成13年の1期生から逐次実施されます。
- 2 現職・OB会員交流 各地域支部毎に、現職会員とOB会員等との親睦及び勉強会等を推進し、交流を深める。
- 3 親睦交流会の開催 期別對抗親善ゴルフ・テニス・囲碁等により親睦を深める。9年度試行的にゴルフコンペを実施しましたが、10年度はゴルフ及びテニスを実施する予定です。奮ってご参加下さい。
- 4 相談窓口の設置 学生、指導官、会員及び子弟に対して進路・結婚・教育・再就職等についての相談を受け入れる窓口を設置する。
- 5 講演会の実施 時局に応じた防衛・安全保障等に関する講演会を実施し、防衛意識の向上、普及を図る。
- 6 会員の出版への支援 会員の出版に対し、支援、協力する。
- 7 各種団体との交友活動 有力な各種団体との交流に努め、間接的に防衛意識の向上普及を図るとともに、同窓会活動の活性化に資する。
- 8 外国留学生OBとの連携の強化 留学生OBの現状を把握し、会員として登録し交流を深める。
- 9 全国的な情報網の整備 地域支部等を含めたインターネット、電子メール等による全国的な情報網を整備するためのシステムスタディーを行う。

それぞれの実施線表を表1に示しますが、平成10年度からこれらの事業計画が具体的にスタートしますので、会員各位におかれましては積極的な御協力、御参加をお願いするとともに、事業実施上の御意見、御要望等を本部までお寄せくださるようお願いいたします。

中期事業計画

表 1

事業		年度	平成9年 (1997)	平成10年 (1998)	平成11年 (1999)	平成12年 (2000)	平成13年 (2001)	平成14年 (2002)	
全般			▼ 創立45周年				▼ 1期卒業45周年 創立50周年		
1	ホームカミングデーの実施		P	R	準備 P	実行委員会 R	1期 準備 P	実行委員会 R	
2	現職・OB会員交流		地域支部の設置 交流の促進						
3	親睦交流会の開催	ゴルフ テニス 囲碁 他		▼	▼	▼	▼	▼	
4	相談窓口の設置		P	R	準備 (カウンセラーの養成・相談室の整備等)	▼ 窓口の設置	実	施	
5	講演会の実施			▼ 第1回	▼ 第2回	▼ 第3回	▼ 第4回	▼ 第5回 (50周年記念講演)	
6	会員の出版への支援		P	R	準備 (出版委員会の設置・基準の設定)		支 援		
7	各種団体との交友活動		P	R	準備	交 友 活 動 交友委員会の設置等			
8	外国留学生OBとの連携強化		現 状 把 握			名簿等整備	同 窓 会 員 と し て 把 握 連 携 の 強 化		
9	全国的な情報網の整備		準 備		システム の整備 名簿等整備	試 行	運 用		



コマツは、長年にわたって培った豊富なノウハウと、最先端のトータルテクノロジーで、防衛システムをサポートしています。

【営業品目】

- 戦闘車両 ●施設車両 ●弾薬 ●エンジン
- ロボット ●プレス ●レーザー機器 ●電子機器
- 地下掘削機械 ●海洋開発機器 ●建設機械

KOMATSU コマツ 特機事業本部
〒107 東京都港区赤坂2-3-6 TEL. 03-5561-2740



US-1A 救護飛行艇

ShinMaywa

新明和工業株式会社

航空機事業部 〒658 神戸市東灘区青木1-1-1
甲南工場 TEL 078-412-9151
営業部 〒100 東京都千代田区大手町2-6-2 日本ビル
TEL 03-3245-6611

Hypermini



第32回東京モーターショーコンセプトカー



日産自動車株式会社 宇宙航空事業部

東京都杉並区桃井3-5-1 〒167
電話 03-3301-6720 (ダイヤルイン)
FAX 03-3301-6717

C&C for Human Potential



NEC

じぶん、新しくしたい。

頭のなか、心のなかで生まれたことを、自由に思い通り表現できる。時間や空間の制約を気にせず、世界中の人々と対話ができる。好奇心を刺激する情報がどんどん飛び込んでくる…。デジタルのチカラは、あなたのなかの新しいじぶんが目を覚ますのを応援します。さあ、一歩前に踏み出して、真新しいじぶんへ。

ちょっとの勇気とデジタルと。

既存の組織やネットワークの枠をこえて異業種間交流を行う

新世紀研究会

【会員構成】 経営者、管理職、ジャーナリスト、弁護士、公認会計士、医師
【例会会場】 東京都千代田区丸の内1丁目4番6号 日本工業倶楽部
【事務局】 東京都港区赤坂1-1-18 井波・太田法律事務所 弁護士 太田秀哉
TEL .03-3586-3641 FAX .03-3584-1595

期別対抗ゴルフ大会



炎天下、盛り上がる開会式

大会概要

- 主催者/防衛大学校同窓会会長 小西学生 担当理事/石津 節正
- 日時 /1997年8月4日
- 場所 /霞ヶ浦カントリー倶楽部
- 参加者/1期生より7期生までの各期より10名ずつ選出された70名の選手
- 優勝杯
 - 防衛大学校校長杯
グロス優勝チームに対して授与
 - 同窓会会長杯
ネット優勝チームに対して授与
- 各期世話人

1期	堀田恵彦 (競技委員長)
2期	佐藤十郎 (競技委員)
3期	茂手木久卓 (競技委員) 北島壽一
4期	内田耕太郎
5期	根岸勝利
6期	西村表明
7期	白井小五郎



(左) 会長杯 (右) 校長杯

当 大会は、同窓会活動活性化の為のひとつの試みとして、同窓会本部において企画された。まず選手の選出等について、取り纏めを、各期の世話人をお願いしたが、同窓会の予算が無いことから、非常に心苦しい思いをした。大会冒頭の挨拶で会長が申し述べられたが、会が開催できたことについて厚く御礼申し上げたい。

当日は快晴、と言えは清々しい良い天気と思われようが、時は8月4日、カンカン照りで湿度が高いという厳しい状況の中、09:40全選手70名が集めた。会長挨拶、競技委員長の競技要領説明、各チームの記念撮影と開会式が進むうちにも、選手のファイトが盛り上がってくるのが感じられ、優勝の挨拶のため、各チームのキャプテンを決めておくように言われるや、それは頂点に達した。

競技要領とルール

一. 競技要領

- 18ホールストロークプレー。ノータッチ。ホールアウトとする。
- スコアカードは対抗チームの選手よりアサインして貰い、各人サインの上所定の提出箱に投ずる。間違いないように同期パートナーと確認し合うことは許される。
- グロス優勝は各期チームのグロス1位より7位までの合計により決定する。ネット優勝は各期チームのネット1位より7位までの合計により決定する。同点の場合はシニア期の勝ちとする。
- ハンディキャップは新ベリア (トリプルボギー切り) 方式とする。

二. ルール

- 1 ルールの適用はJGA、ローカルルールに基づくが、競技委員が裁定に立ち会えないので各組のキャディの裁定に従うものとする。それが間違っていた場合は最終ホール終了後競技委員に提訴出来る。最終的な裁定は競技委員長によるものとし、会の運営、ルール適用等は親睦会にふさわしい厳格かつ弾力的に適用する。また、団体戦なので同組の同期生とは互いに教え合いながら戦うことが許される。ただし、バットの順番を変更したり身を支える、スイングの便宜を与える等の援助は許されない。
- 2 特別ルール
 - (その1) OBもしくは池に入ったと思われるボールの処理OBライン近く又はウォーターハザード近くで落下して見つからないボールは、それぞれ、OB、ウォーターハザードとして処理する。OBの虞れがある場合は、必ず暫定球を打っておく。
 - (その2) ロストボールの処理
ロストボールを処理する時間は5分以内とし、見つからない場合はボールが落下したと思われる場所に最も近いフェアウエーで、なおかつ、ホールに近づかない点にドロップして打つこととする。スコアはそのホールに要したストローク数に2打プラスして記入する。
 - (その3) アドレス及びアドレス後に動いたと思われるボールの処理アドレスしたかどうか、またボールが動いたかどうかは、全て競技者の自己申告によるものとする。

(付記) 空振りについても適用する。

10:00. Na 1, Na 3, Na 10, Na 12のティーより一斉スタート、白球を追って緑の戦場へと進軍した。期別対抗戦なので、同じ組の2名ずつが、同期生同志で協力しながらプレーをする。チームによっては、その日調子の良かった同期生のために、専らアシスタント役に徹したと言う話も聞いた。頭上には百里より飛来するF15イーグルの爆音が鳴なり響き、今は、OBとなった選手たちの血を沸かたてる。午前中元気にスタートした今だに血気にはやる老武者も、午後になると滝のような汗を流しては水を飲み、それを又流し出すという繰り返しの中、とぼとぼと最終ホールに辿り着くという有様になった。

キャディさんも、選手の顔色を見て相当心配したらしく、冷たいおしぼりを、まめに配るやら、冷水を怠りなく準備する等随分と気を使っていたようだ。とにかく、全選手70名と役員1名が無事にパーティに出席したことを報告する。

競 技終了後メインダイニングで表彰パーティを行った。結果は後記の通りだが、各チーム7名のベストグロスの合計が1位と2位で1ストローク差、4位までに数ストロークでひしめくという僅差になった。

競技委員立ち会いのもと6期生世話人、西村選手が厳しくチェックしたが、万止むを得ず、7期の勝ちを認め無念の涙を飲んだ。

—誰かが呟く。『たかがゴルフ、されどゴルフ』。—





諸先輩を押さえ、グロス優勝した7期生チーム



話題の尽きない表彰パーティー

会 長の閉会の辞にもあったが、全員が無事に大いに楽しめたことは、誠に素晴らしい事と思う。70名×25,000円=175万円という、選手皆様の多大な浄費によって行われた、同窓会活性化のための試みを、有意義なものにしたい。選手達は、今日一日の楽しい思い出に、感謝を込めた握手を交わしながら散会した。

記 根岸

グロス (ストローク) ネット (ストローク)

1位	7期生	592	1位	3期生	510.6
2位	6期生	593	2位	7期生	512.8
3位	2期生	596	3位	2期生	513.4
4位	3期生	597	4位	5期生	514.8
5位	5期生	606	5位	6期生	515.0
6位	1期生	628	6位	1期生	521.6
7位	4期生	648	7位	4期生	528.4

個 人のベストグロスは、6期の森本直孝選手で1ラウンド75ストロークの立派な成績であった。ネット優勝は、要領の良い3期生チームで、まあ揚言すれば戦略性に富んでいた(本人達が言っていただけだが)と言えるのだろうか。ひとつ付け加えれば、3期生チームキャプテンは、司会者の指名を待たず、勝手に勝利の挨拶を行ったことを報告しておく。(思いもかけないことで、途轍もなく嬉しかったのだと思う)

2期生はグロス、ネット共3位であったが、2期生チームの席から「我々は良くやったと思うよ」という声が聞こえたように善戦健闘を讃えたい。

1期生の席からは「若い期の連中が、我々を中心に集まって来て、一緒にプレーできるだけで嬉しいよ」という遠慮した声が聞こえた。4期生、5期生については、「負けるチームがあるから勝つチームがあるのだ」と言う慰めにもならない言葉を、述べておこう。

担当理事より来年からの大会のあり方につき意見を徴したところ、4期林崎選手他多数の発言を頂いたが、次回からも連続して大会を行うことについては、全員一致で賛意がよせられた。

選手

	1期生チーム	2期生チーム	3期生チーム	4期生チーム	5期生チーム	6期生チーム	7期生チーム
1	志摩 篤 (G)	岡部 文雄(N)	手塚 正水(N)	庄野 凱夫(N)	根岸 勝利(N)	上野 憲一(G)	石田 潔 (G)
2	向吉 長門(G)	吉崎 格 (G)	君嶋 信 (G)	水野 勝利(A)	千葉 瑞樹(G)	長谷川重孝(G)	吉岡 誠 (G)
3	小西 岑生(N)	佐藤 十郎(G)	朝倉 謙 (A)	宇野 章二(G)	福地 建夫(N)	森本 直孝(G)	白井小五郎(G)
4	山下 昌宏(N)	伊東 一光(N)	茂手木久偉(G)	植草 博明(G)	杉浦 功一(A)	吉田 耕平(G)	杉田 明傑(G)
5	勝山 満 (A)	三石 勉 (G)	中川 久雄(N)	猪狩 真 (N)	桐生 光憲(N)	杉本 光 (N)	土井 義彦(N)
6	堀田 恵彦(A)	白鳥 昭夫(A)	宮本 双策(N)	林崎 千明(N)	青山 利雄(G)	中原 猛敏(N)	大田黒幸雄(N)
7	岡田 毅 (N)	岡 文夫(G)	渡邊 和彦(A)	青野 繁 (G)	村山 善康(A)	西村 義明(N)	玉井 秀幸(N)
8	城尾 百男(N)	石原 公夫(N)	松尾 照昌(A)	植村 明矩(G)	松本 哲雄(N)	葦津 和親(A)	平賀源太郎(N)
9	石原 隆 (A)	郷原 一保(G)	中嶋 平満(G)	加藤 公明(A)	江添 正倫(A)	入谷 正伸(A)	大杉 祐司(A)
10	遠茂谷博之(G)	大中 康生(A)	松永 保孝(G)	平松 雅史(A)	多田 力 (G)	富田 武征(A)	鈴木 俊道(A)

人は空に夢を見る。


三菱重工業株式会社

航空機・特車事業本部

東京都千代田区丸の内2-5-1 〒100 ☎ 東京(03)-3212-3111

私は碁が好きである。官舎の近くに篤志家
がいて自分の家の二部屋を自由に使って良
いと解放してくれている。その部屋に碁好き
が集まって自由に囲碁を楽しんでいる。月に
一回大会を開いて自分の実力を思い知らされ
ている。近くに陸上自衛隊の駐屯地が多くあり
OBや現役の自衛官が、そして近くの民間の
親父さんもある。子供も数名集まってくるの
で教えている。総勢60名ぐらいで土・日には
その半数ぐらいが入れ替わり集ってくる。和
やかな交流である。いつのまにか趣味のクラ
ブになった。

話は変わるが私は陸上自衛隊の機関誌「修
身」が好きである。趣味に関する記事が多く
掲載されていること、思わぬ知人の近況を
知ることができるからである。趣味の写真や
絵画、短歌、川柳、囲碁・将棋、お茶に生け
花、ゴルフ等等。懐かしい名前の人の投稿
を見ると「ああ元気で人生しているのだな」
と思う。そして葉書の一枚「元氣してますね
今月掲載の風景の写真素晴らしいね。」と
便りする。そうすると彼の近況が返信され
て来る。

また話は変わるが世の中やコンピュータ
ーの時代である。若者の多くが仕事に、趣味
にそして実用のため手軽にコンピュータを
駆使している。これによって時間と距離が革
命的に短縮された。団塊世代以前の年配者
でもコンピュータを習い始める人
が多くなったと聞く。インターネット
トやホームページに関心を持ちそれ
も趣味の世界をより深く充実
するためとか。



私はこれら趣味の
クラブと雑誌やコンピュ
ーター等の発表媒体(ステー
ジ)として同窓会等直接出会う
会同を組み合わせて同窓生
の肩の凝らないふれあ
いを活発にできたらいいな

と考えている。同窓会活動の方向性は同窓生
とその家族の幸せへの貢献と同窓生を通じて
の社会への貢献があると考えています。その
根源は同窓生の一体感、そうすふれあいの
深さにあると思います。

現役の時代は人のご縁で仕事をしような
ものです。まさに同じ釜の飯を食った仲での
おつきあいでした。OBになった途端にその
縁が稀薄になってしまふのは淋しい。終生に
わたり同窓生のふれあいを保つ事は幸せなこ
とである。気のおけない仲間と旧交を暖める
事に優る楽しさや寛ぎはない。年一回の同窓
会では不十分。趣味のク
ラブがあつてそれを発表
するステージと趣味人を
結び付けるネットワーク
があれば全国ネットの交
流の場を造る事が容易に
できる。常時、時と場所
を選ばず人のふれあいを
保つ事にことかかない。

趣味「囲碁」で考え
て見よう。防衛
大学のあ
る横須賀
としよう。30坪程の部屋があり
そこに20席ほどの碁盤を用意する。
周りに少しの休憩や懇談のためのスペース
があれば良い。少しのPRと口コミの後、横
須賀近辺のOBがたまに碁を打ちに来る。現
役の自衛官が「今日わ」。防大生が「先輩荷物
置かせて下さい」。こんな調子で次第に人が集
まりパチリパチリと手談がたのしい。コーヒ
ーでもあればなお楽しい。そのうち誰かが言
う。「防大の囲碁部は今どうなっているの? 顧
問にでもなれないかな?」「自衛官の子供に碁
を教えようよ。いい情操教育になるよ。」そん
な事で子供も集まる。「たまにはボランティア
で「地域の囲碁大会」を計画しようよ。」さっ
そく役場にいつて交渉する。大会場所の公民

ふれあい



富士学校総合研究開発部
8期(陸) 藤野 憲

館も碁器も賞品も市・町・村が準備してくれ
る。要は大会を運営するのである。こうして
地域の人々との交流が始まるかもしれない。
一つの社会貢献でもある。

ときには趣味を離れて、先輩・後輩の人生
相談もいし、諸々の情報交換も良いだろう。
これらクラブの大義名分は「交流」「子弟教育」
「地域等貢献」等そのクラブの特色に応じいろ
いろ考えれば良い。運営の細部は趣味の特性
に応じ色々アイデアを出して活動するこ
とになろう。色々な趣味を媒体としてこん
な集りが駐屯地の周辺等各支
部に沢山で

ければ楽し
い。特に単身赴任者
にとつては福音で有ろう。自
衛隊の事だから教える人、や世話を
焼く人等の人材には事欠かないだ
ろう。しかしクラブ運営のためには、
場所の確保を始め碁器の準備など少
しの運営資金はいるが知恵とアイデア
を働かせれば若干の収入を得ることは
なんとかなる。同窓会で応援してくれ
ればなおさら良い。

こうして小さなステージができる
これをさらに大なるステージとするためには、
コンピュータの出番である。個人やクラブ
等小さなステージをコンピュータネットワ
ークで結ぶのである。生活リズムも趣味のレ
ベルも千差万別の趣味人をその人のニーズに
応じてマッチングさせることはコンピュータ
ーの最も得意とするところである。何時、い
かなる場所にしようともコンピュータ囲碁
対局が簡単にできるのです。もちろんスピー
ドの遅い郵便対局というのもあります。こ
うして趣味インフラの出来上がり。秋の夜
長に北の友と南の友が画面を通じてしみじみ
手談。ああ至福なり! 近くにあつては一緒に
楽しみ遠くにあつては既知の友とも未知の新
しい友とも新鮮なふれあいができる。

そのうちクラブだけで
なく、たまには遠方の
友とも会って見たくな
り、どこかに会合して
地区大会や全国大会を、
はたまちよつと場所を
変えてと小さな旅行や外国
旅行と合わせた囲碁旅行の企
画など、ふれあい
の場は拡大をする。さて
今日は日曜日! クラブで仲間と会
うか。仲の良い北のあいつと一局コンピ
ューター対局といくか。来週は大会だ。今度こ
そ優勝だ。このところ仕事が忙しかったがよ
うやく一段落、来月12月は中国旅行、北京
で一局か、早く来い12月。来年は地区
大会の幹事だ。忙しくなるな。ところで子供
たちもだいが強くなった。落ち着きも出たし
明かるくなったな。等々。年を取るひまはな
いのである。まして粗大ごみにもならない。
さらに時が経ちサンデー毎日に結構。自
分の好きな、こんなに楽しい趣味を長く楽し
むために健康にも気をつけなくてはと自分に
言聞かせる。楽しきかな人生!



こんな調子で色々な種類の趣味のふれあい
ネットができれば、趣味相互の乗り入れも可
能となり、より大きなふれあいの場が出来る
のである。こうして出来た同窓生の強い絆が
あつてこそより大きな目標の同窓会活動が可
能になる。
さてこのアイデア何時から取り掛かろう
かと思案投げ首。現役終了近し。勤務地の
先々で打った碁がたきがニコニコしながら私
の頭のなかで踊る。とりあえずこんな話を聞
いてくれる友達にホラを吹きつつ各地に賛同
の友を募ることにしよう。それにつけても各
支部等に交流と情報発信拠点としての同窓会
館のようなものがあればこんなふれあい環境
も意外に早期に実現し同窓会も活性化するこ
と請合いなのだが。皆さん如何。

4期生会 ◆会長 — 林崎千明

4期生会友諸兄には恙無くお過ごしのことと存じます。会友の殆どは還暦を過ぎ、あるいは再転職の時期を迎えるなど再度の変化の時となりつつあります。「心地よさ」「心安さ」「懐かしさ」を求め得る期生会として会友の絆を深めてまいりたく思っております。

1 平成9年度版新草は、転職、住所変更等も多いため全面改訂版としました。

2 9年度総会・懇親会を3月1日(日) 12時から明治記念館で開催します。御婦人共々での多数の参加を期待しております。

3 杉原剛介君が自身の還暦祝賀会の記念として「菊は咲くか—三島由起夫とそして自衛隊の若き士官たち」と題する本を刊行しますが、福岡市のタグチ工業会長田口一幸氏が増刷頒布しています。

4 同窓会期別対抗ゴルフ大会に4期として時間等に余裕のある10名が参加し断然ラストの成績を収めました。今後この種の大会に参加したい方は手を挙げて下さい。(但し期生会として特別の支援は致しません。)

5期生会 ◆理事長 — 安岡義純

左記により、5期生ゴルフ会を実施しましたので報告致します。

第1回5期生&コレスグリーン会東日本大会

1997年3月14日(晴)

於 越生ゴルフクラブ

第2回5期生ゴルフ東日本大会

1997年11月13日

於 八房カントリークラブ

7期生会 ◆副会長 — 杉田明傑

同期生の皆様、ますますご健勝のことと思います。昨年は同期のほとんどが退官する最後の年になりました。山本安正君(海)が海上幕僚長に昇進され同期の制服はたった一人となりました。山本君のますますのご活躍とご発展を祈りたいと思います。同期の皆様におかれましては全国津々浦々で新しい人生を歩まれご家族共々ご健勝でご活躍されていることと思います。今後なかなか一堂に会して旧交を暖める機会も無いと思いますが、地域ごとに末永く同期の絆を大切にしていってほしいと切に思うものであります。

さて、皆様ご承知のことと思いますがこの度、石田潔君(陸)が今年の参議院選挙に自由民主党比例代表として立候補する事になりました。同期生の皆様には、石田後援会事務所の方からご協力をお願いしていると思いますが、石田後援会事務所は同期の大越君(陸)を本部長に、田村君(陸)、平賀君(海)、伊藤淳君(空)を副部長に、そして吉岡君(陸)が事務局長として関東地区同期の支援を受けて

て昨年の8月事務所開き、10月「励ます会」の実施等頑張っています。

同期生の皆様には地域の支援組織造り等厳しいお願いを致していると思いますが、何卒宜しくお願いいたします。尾辻君(海)が現在、参議院議員として活躍ですが石田君を国会に送り同期二人が国の安全保障や危機管理分野を充実していくのを期待するものであります。

最後に同期生の皆様のご健勝とますますのご活躍をお祈りいたします。

8期生会 ◆会長 — 古澤忠彦

この度、計らずも8期生会の会長に選ばれました。これまでは、先輩役員、会長の計画されるままに懇親会があるといえは指定されたところに行き、総会があるといえは深く考えもせずに挙手をしてきたのが、急に主導的に動かなければならなくなったことに戸惑っています。ともあれ、多くの同期生が第2の人生を歩き始められているときに、未だ第1の人生に残っている者として最後の機会を同期生のために微力を尽くせる事は、或いは幸せなことかと思ひ直し、頑張ることを決意しましたので宜しくお願いします。幸い、頼りない会長を思っただけか、各役員の皆様が積極的にしっかりとされているので安心していただきたいと思います。

昭和35年に小原台に集まって以来、同期生の絆強く、互いに切磋琢磨し励ましあつてきた仲間ですが、これからは、互いに気遣いある年代になったことかと思ひます。人生80年の時代、これから更に30年の充実した人生を、これまで以上に同期生としての関心と気遣いを以て、楽しく過ごしていくためのきつかけを作ればよいと考えています。そのためにもできるだけ接触できる機会を作為し、近況を交換し情報を共有出来るようにしたいと思ひます。それぞれの地域で、小さくても集まる機会等これから増えればよいと考えて

います。

夫拔きの、夫人だけの集いも始まっており、互いに情報を交換し、絆を深めているところもあります。まだまだ我々には天下国家を論じる気概は十分にあるし、家族自慢に花を咲かせる心臓強さもあるはずで。

以上が会長就任の抱負ですが、最後に、先

期生会の状況についてお知らせ致します。

日時 97年8月23日

場所 グランドヒル市ヶ谷

参加者 約100名(夫人約20名)

次第 総会及び懇親会

1 8年度事業及び会計報告

2 新役員選出

3 9年度事業計画

新役員

会長 古沢忠彦(海)

本部長

企画 川島一郎(海)

会計 宮崎健二(海)

陸担当 正岡敏紀(陸)

海担当 矢島寛三(海)

空担当 吉岡勝義(空)

なお、平成8年度に逝

去された同期生は、次の方々です。

8・5・31 三崎恒義君(海)

8・7・8 沼生淑康君(陸)

謹んでご冥福をお祈り致します。

16期生会 ◆会長 — 江藤文夫

防衛大学第16期生会は、卒業25周年記念同窓会を、防衛大学開校祭に合わせ、平成9年11月8日(土) 横須賀セントラルホテルで開催した。当日は陸・海・空自衛隊在職者はもちろんのこと民間で活躍している同期生を含め約120名が参加した。総会においては、今回全国規模で実施したアンケートの結果として今後ともこの会が存続



8期生懇親会

することについて370名(約90%)の賛同を得たことを報告すると共に、将来の16期生会の維持運営等について意見を交換した。この結果、引き続き同期としての親睦を深めていくため、定年退職者の出始める5年後に30周年記念同窓会を開くこと、そこで定年後を含めた同期の親睦の維持増進のための同期生会の運営要領を定めること等を決めた。

参加者のなかには、防衛大卒業後初めて参加する者、地方からこの日のために上京する者、奥さん連れの方等参加要領も様々であったが、懇親会においては、卒業当時防衛大の幹事だった曲元陸将をはじめ来賓としてお迎えした兼坂元教官、松本元大隊指導官を囲み思い出話に花を咲かせる者、家族の近況、職場のこと、学生当時の思い出話にふける者等、料理そっこのけでの懇親が進み、次の30周年での再会をそれぞれが誓い盛會裡に会を終了した。



16期生同期会集合写真



21期生同期会集合写真

19期生会

◆会長 — 酒井健

「19期生、これから同期の連携を」

昭和50年3月小原台から東立ち、陸・海・空の幹部候補生学校または民間の道へそれぞれ道を歩み、約23年が過ぎ現在では自衛隊や企業の中で中堅幹部の職に付く世代となりました。防大卒業時全員が凛々しい青年でしたが、私のみならず時々同期生の髪に白いものを見るに、今ではロマンス・グレーの世代になりつつあるとの感がします。

さて、平成10年度には、いよいよ部内の定年退職前の能力開発設計集合教育いわゆる「グリーン・プログラム」に参加する予定となり、特に、陸上自衛隊では19期生全員が同じ短期の講習を受けることとなります。

23年前と同じ顔ぶれが一同に会し、まさに「BACK TO THE SCHOOL」とでも言いましょうか、今から楽しみにしているのは私だけではないと思います。そこで、これから定年後の同期生間の相互の横の連携を図っていくための基盤を整えるため、この機会に同期生会の名簿作成を準備して参りたいと考えますので、ご協力の程宜しくお願致します。

最後に、防大19期生同期同志の出会いと喜びをいつまでも大切にして参りたいと強く感じています。

21期生会

◆会長 — 河村克則

77年に小原台を巣立った我々21期生は、昨年卒業20周年を迎え、これを記念して、同期生相互の懇親を更に深めるために、平成9年2月8日東京新宿のホテル「センチュリーハイアット」において記念の宴を開催しました。当日は、全国各地から同期生184名と夫人34名と、来賓として小西岑生防衛大校同窓会会長及び後藤藤明敏21期生担当指導官をお迎えし、合計220名が本場に集い、時間を過ぎました。猪木元校長は、大変残念ではございましたが体調が優れずご欠席され、かわりに暖かいご祝電をいただきました。

懇親会の前に(酔っ払う前に?) 期生会の総会を行い、まず、これまでの同期生物故者12名(●陸—山先、岩野、脇山、吉村、栗原、尊田 ●海—佐々木(義) ●空—浅野、柳園、高柳、新敷)に黙祷を捧げ、卒業以来20年間手をつけなかった会則の改正が議決されました。これは、今後、21期生会を我々の定年後も含めてなるべく無理なく長続きさせたいとの趣旨から成されたものです。また、20年

の長きにわたり会長を勤めた松澤君及び会計藤枝君から卒業以来20年分の会計報告があり、その場で参会者により了承されました。

ここに20年間会長として同期生の発展に尽くされた松澤君及び今回の懇親会の実施、名簿の作成等の20周年記念事業を約3年前から準備された市田君、藤枝君、鎌田君、河村(修)君、久本君等の準備委員会の同期諸君に心から感謝致します。

なお、ここで平成9年7月16日に陸の野中敏治君が、長期に亘る病氣との戦いの末、惜しまれつつ永眠されたことをお知らせします。最後に、今後5年間の21期生会役員を紹介致します。

会長 河村克則(自衛艦隊司令部)
事務局局長 佐々木孝宣(統幕事務局)

副事務局長

(陸) 平野治征(統幕5室)
(海) 安斎 勉(防研45期研修員)
(空) 秦 啓次郎(空幕防衛課)

総務 (陸) 吉田明生(防研45期研修員)
(海) 河村修二(統幕校学生)
(空) 久本幸男(空幕人計課)
会計 野村 勉(防研所員)
会計監査 飯尾俊政(海幕教育課)

29期生会

◆会長 — 馬場邦夫

全国各地の諸先輩、後輩の皆様には各分野でご活躍の事と存じます。

私も29期生も、卒業して早10年たち、30半ばの働き盛り・中堅どころとして各幕僚監部を始めとする主要機関・部隊において諸先輩方のご指導を頂きながら頑張っております。(廊下トロンビ?)

又、海外においても4名が勤務しており、岩村君(陸上)がUNDOFの司令部要員とし

て、澤田君(陸上)が在アラブ首長国連邦(UAE)日本大使館の警備官として、中筋君(海上)がアナポリスの教官として、秋元君(海上)が米国FMS連絡官としてそれぞれ活躍しております。日本を代表して海外で勤務する彼らの益々の活躍と無事の帰国を祈念している次第です。

最後になりましたが全国各地でご活躍中の諸先輩方、後輩諸君の益々のご活躍・ご健勝をお祈り申し上げますとともに、引き続きのご指導・ご鞭撻のほどを宜しくお願い申し上げます。

31期生会

◆会長 — 藤岡登志樹

防衛大第31期同期生会員の皆様におかれましては、陸海空各自衛隊並びに広く社会の第一線においてご活躍のことと思います。今や第41期の学生が卒業し、十年後輩の卒業生が部隊や社会において活動を始めており、時の流れの早さを改めて感じさせられているところでもあります。

さて、防大第31期生会は、期生会長並びに会計業務を防大の指導官、研究員及び研究科学生等にお願し、防大のある小原台を本拠にして活動して参りましたが、この度、事務局を東京地区に移転させることに致しました。当面は、比較的多くの同期生が勤務している目黒の陸海空幹部学校地区に事務局をおいて運営していきたいと考えております。そこで、卒業10周年を一つの節目として、同期生間の旧交を温め親睦を深めるために「卒業10周年記念行事(仮称)」を活動活性化事業の一環として実施する予定であります。細部については、まだ未定ではありますが、概要は次の通りであります。多くの方々への参加と、運営に関するご意見をいただければ幸いです。また、これに関連して同期生名簿も作成中ですので、併せてご協力を賜りますようお願い申し上げます。

防衛大学校第31期卒業10周年記念行事(仮称)

時期 平成10年4月または5月

場所 首都圏(東京周辺地域)

会費 約1万円(期生会からの補助金を一部使用し、もう少し下げる予定です。)

実行委員長 石井一将(陸・幹部学校)
名簿作成 寺西孝之(陸・幹部学校)

38期生会 ◆会長 一石井浩之

3年前の幹部候補生時代以来、今回が2度目の寄稿となります。この様に筆を執る機会を再び頂き、改めてこの数年間を振り返る時間を持つことよってある意味で驚きにも似た感慨が、私の中に湧いております。意識の高ぶりがそのまま私見に現れた際には、お許し願いたいと思います。

さて、防大38期生は今年度7月をもって2等陸、海、空尉にそれぞれ昇任し、小隊長として部下を持ち奮闘する者、新米パイロットとして部隊配置になった者、指導教官や区隊長、教官として後輩の育成にあたる者、あるいは防大研究科や一般大学院で学生として勉学に励む者等、多方面でそれぞれの能力を発揮し、部隊及び学校の核心となるべく東奔西走の毎日を送っています。

また私生活に至っては結婚する者も多く、結婚式では久しぶりに同期が顔を合わせながら同期会のような盛り上がりで新郎新婦を祝福する光景も少なくありません。そして家庭を持った中には2世誕生といった明るい話題も始始め、我々38期生は公私共に充実の真只中にあるといったところであります。

私の勤務する北部防空管制群は、部隊の特質上航空はもとより陸上及び海上との繋がりが非常に深く、また三沢基地は陸、海各部隊と位置的に近傍にあるということから、演習等の各行事で同期と顔を会わせる機会が多く、今年度も他部隊の同期に数人会うことができました。この様に陸、海、空の隔てなく会うチャンスがあるのは非常に恵まれた環境に私

がいるということなのでしょうが、そこでもっと強く感じることに紹介したいと思えます。

同期が久しぶりに顔を合わせる時私は努めて一席設けるようにしています。ほとんどの方がそうして機会ある毎に会合を持つのですが、その中で必ず話題に上がるのがそれぞれの近況報告と、直面する問題であります。これが部隊の枠を越えて自然発生的に語り合える所に同期が共有する大きな財産のひとつがあるのではないのでしょうか。

幹部に任官し3年弱、右も左も分からぬ3尉時代を経て初級幹部として部隊運営、隊員指揮の中核に位置する自らの責務の重さに気づいたとき、周囲からの期待の大きさや理想と現実のギャップが我々に大きな壁として立ちほだかります。この様なときに、同じ釜の飯を食い、苦楽を共にした同期が互いに現実の問題を提起し、議論しあえる時間がどれほど有益なものであり大切であるかを私は実感します。いかなる時でも立場や環境を越え、腹を割って話し合える同期の絆こそ、小原台での4年間が与えてくれた何ものにも換え難い宝物であると考えます。

もうひとつの宝物は、互いに理想や夢について語り合い同期として大きな方向性を見いだせることです。各方面、各部隊での勤務に没頭するあまり、ふと周囲の状況が見えなくなったり視野が狭くなったような不安に襲われることが度々あります。幹部として重要な要素であるところの理想を現実のものとする実行力や、現状をより良くしようとする革新性が、同期と語り合うことでほんやりとでもそれぞれの立場での、ベクトルとなり、ひいては組織の活性化に繋がると信じています。

防大時代には安易に得られる物として深く考えていかなかった事が、じつは人生に於いて最も大切なもののひとつになっている事実、今また筆を置くにあたって再認識する所であります。

これからも38期生に対し変わらぬ御指導御鞭撻宜しくお願ひします。

39期生会 ◆会長 湯下兼太郎

秋冷の候、第39期生各位におかれましては益々御健勝のこととお慶び申し上げます。平成7年3月に防大を卒業して以来すでに2年以上経過いたしました。この間に陸・海・空各幹部候補生学校、また各職種や特技の教育等を経て皆様それぞれの職場で御活躍の事と思ひます。

さて、卒業の直前に、第39期生の名簿の作成を決めたことは皆様記憶しておられる事と思いますが、私の怠慢により作成はおろか、基礎資料の収集もままならない状態でありました。これからの同窓会として第39期生会としての活動の基礎とも言える同期生名簿の作成はいわば当面の必成目標であるといえましよう。

つきましては、陸・海・空の各職種・職域等の同期生(防大39期生が含まれているもの)等の資料をお持ちでいらっしゃる方がおられましたら、是非とも御提供頂きたくお願いいたします。また、名簿作成につきまして何かご意見等をお持ちの方がおられましたら、私の方までご連絡頂きたく存じます。

最後になりましたが、会員各位の今後の御健勝御発展をお祈り申し上げます。

連絡先

〒860・0864

熊本市八景水谷2-17-1

陸自42普連3中

TEL 8・963・705

*10・3・6迄は左記

〒187・0004

小平市喜平町2-13-13

陸自調査学校

第77期幹部普通英語課程

TEL 813621418・419

030132144092

(学校直直) (携帯電話)

Kawasaki

2005年の鳥。

次世代SST(超音速旅客機)



ボーイング777:世界最大の双発新鋭機の中核胴体等は川崎重工が製作しています。



フレイグナルス:数々の編隊飛行を行うことが出来る優れた運動性と操縦性を持つ中等練習機T-4が選ばれました。



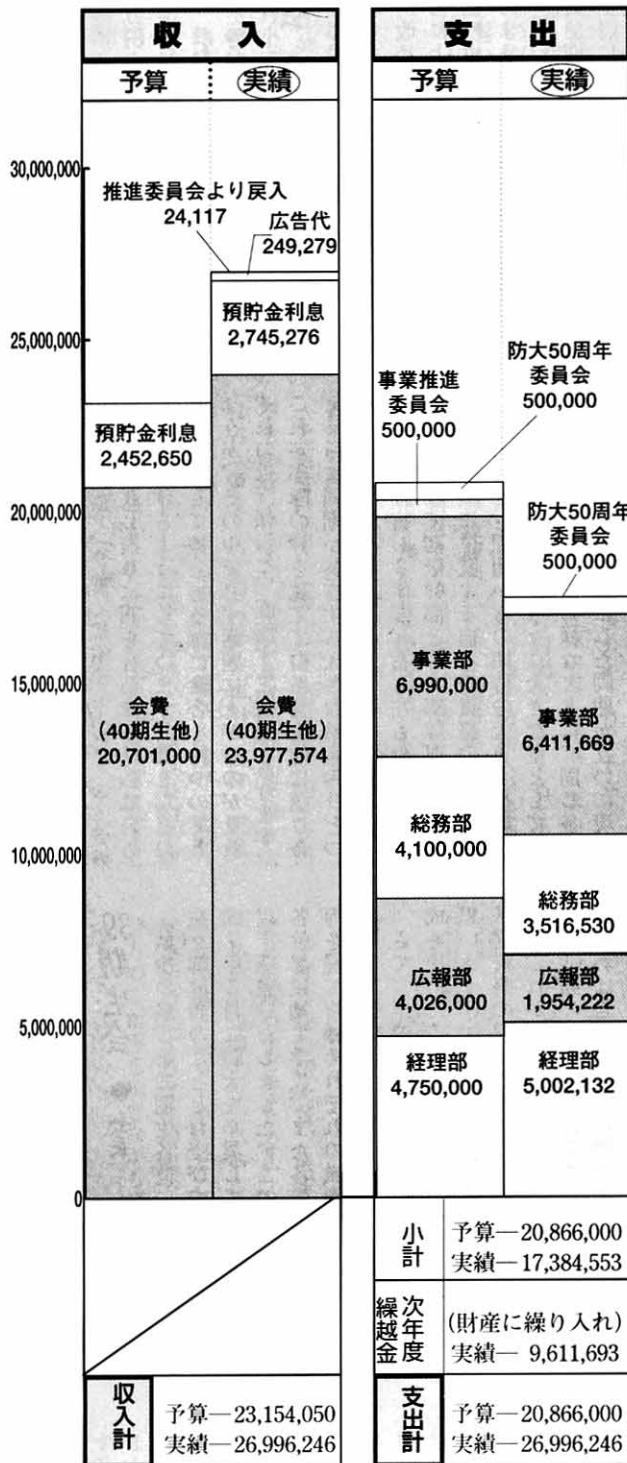
BK117:ユーロコプター・アイゼランド社と共同開発した双発多用途ヘリコプターは阪神大震災の災害救援活動を行いました。



H-IIロケット:その大切な衛星を打ち上げる前線な環境から守るフェアリンクは川崎重工が製造しています。

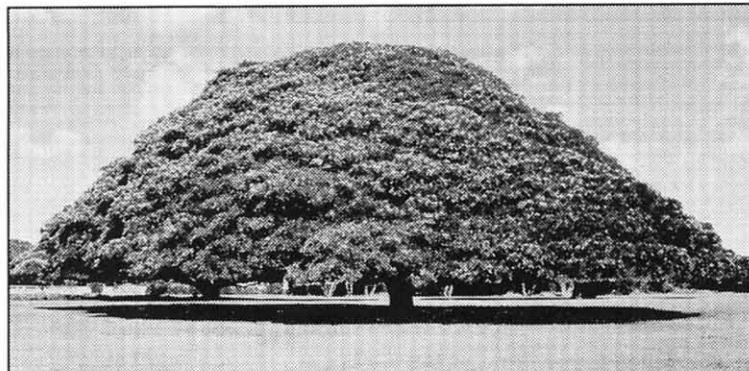
（陸と海と空の次世代は、ことし創立100周年を）
迎えた川崎重工の中で、もう始まっています。

世界と夢の先端に。
川崎重工
航空宇宙営業本部
〒105 東京都港区浜松町2-4-1 世界貿易センタービル
TEL 10313435・2111



平成8年度予算使用実績(細部)

	項目	予算	実績
委員会	事業推進委員会活動費	500,000	0
	防大50周年委員会	500,000	500,000
	小計	1,000,000	500,000
事業部	総会費(会場設営費)	1,800,000	1,891,248
	(通信費)	1,560,000	1,303,000
	(印刷費)	130,000	92,700
	期生会支援費(44期生会助成)	100,000	100,000
	(41期生会助成)	100,000	100,000
	(各期生会助成)	500,000	483,419
総務部	校友会対外活動助成費	800,000	522,000
	開校記念祭助成費	2,000,000	1,919,302
	小計	6,990,000	6,411,669
	顕彰碑献花式費	600,000	321,876
	慶弔費(弔慰金・供花等)	1,050,000	688,391
広報部	職員定年退職者記念品費	100,000	123,620
	事務通信費	20,000	41,440
	複写機賃貸料	120,000	118,656
	電話・FAX維持費	150,000	120,657
	東京事務所運営費(室賃貸料)	1,200,000	1,200,000
	(維持費)	180,000	180,000
	(事務通信費)	180,000	180,000
小計	4,100,000	3,516,530	
経理部	機関紙発行費(作成・発送)	3,976,000	1,899,727
	事務通信費	50,000	54,495
経理部	小計	4,026,000	1,954,222
	会長運営費	500,000	360,515
	事務員雇用費	2,000,000	2,000,000
	事務費	200,000	162,349
	通信費	200,000	163,618
	交通費	100,000	22,900
	会議費	250,000	604,192
予備費(本部移転に伴う諸費用・防衛公開講座等)	1,500,000	1,688,558	
小計	4,750,000	5,002,132	
合計		20,866,000	17,384,553



HITACHI

きっと、もっと、
すてきな夢を咲かせます。

人間らしさをキーワードに、いま私たちの生活や社会には、
本当の豊かさやゆとりが求められています。
日立は、どこまでも人にやさしい先端技術を通じて、
そんな暮らしの夢をひとつひとつ花開かせ、豊かな実りをお届けします。

会費徴収基準について 同窓会 会費未納者をお願い



同窓会「会費規定」が本年4月1日から施行され、最高2万5千円の差が生じます。

同窓会会費徴収基準については、平成2年5月1日発行の防衛大学校同窓会機関紙「ゆうかり」(VOL.6,90)でお知らせしたとおり、「同窓会会費規定」が改定され、下記の「H10年3月31日以前に納入の場合」の額に修正されました。

今回、「防衛大学校同窓会会則」等の改定に伴い「会費規定」も改定され、本科卒業生及び研究科卒業生が納入する普通会費については「卒業時における3尉俸給月額(1号俸)の1/4(千円未満切捨)とされ、会費の納入を遅延した会員は、次により納入することとされました。

普通会費額 | 既納入額 + 遅延金

但し、遅延金 1千円 × (完納年度

納入すべき年度)

「納入すべき年度」とは、本科卒業生については、防衛大学校卒業時から3尉任官相当時までの間(入会年度)に納入、研究科卒業生(本科で納入者を除く)については、研究科卒業時(入会時)に納入するとされています。

下記「会費徴収基準」は、既納入額がない場合を表示してあります。

例えば、全く未納入の5期生が平成10年3月31日までに納入する場合は、26200円。平成10年4月1日以降に納入する場合は、47200円。平成11年4月1日以降については、更に1年を越える毎に千円ずつ加算されることとなります。

防大同窓会總會及び懇親会のご案内

平成9年度防大同窓会總會及び懇親会が下記により東京に於いて開催されます。

是非ご出席賜わりたくご案内申し上げます。

記

1日時 平成10年3月11日(水) 17:00~20:15

(1)總會 (2階・白樺の間) 17:00~18:00

(2)懇親会 (3階・瑠璃の間) 18:15~20:15

2場所 グランドヒル市ヶ谷 TEL:03-3268-0111

東京都新宿区市ヶ谷本町4-1

3懇親会会費 3,000円

4連絡先 防大同窓会本部事務局事業部

(局線: FAX 兼用 03-3351-8910 / 専用線: FAX 兼用 8-6-28895)

なお、参加される方は同封の返信葉書にて平成10年

2月16日(月)必着でご返送をお願い致します。(欠席の方は返送不要です。)

地域支部等の設立状況について

(平成9年末現在)

北海道地域支部 支部長: 塙山 貢 (3・陸) 場所: 札幌市内

西部地域支部 支部長: 織田 豊夫 (1・陸) 場所: 福岡市内

沖縄地域支部 支部長: 小西 忠 (1・海) 場所: 那覇市内

広島地区支部 支部長: 松浦 育郎 (1・陸) 場所: 広島市内

熊本地区支部 支部長: 園川 清 (1・陸) 場所: 熊本市内

本部直轄支部

小原台クラブ 支部長: 菅沼 祐亭 (1・陸) 場所: 市ヶ谷

蓄積された技術で信頼にお応えします

ダイキン工業株式会社

本社/大阪市北区中崎西2丁目4番12号 梅田センタービル

TEL 06-373-4312

東京/東京都新宿区西新宿2丁目6番1号 新宿住友ビル

TEL 03-3344-8058

■特機事業部営業品目

各種弾薬・信管 誘導弾用弾頭・信管 航空機部品

■その他営業品目

ルームエアコン 業務用エアコン 各種冷凍・冷蔵機器

各種フッ素 化学製品 各種油圧機器装置 各種メカトロニクス

製品 アーク溶接ロボット等

会費徴収基準

H10年3月31日以前に納入の場合			H10年4月1日以降に納入の場合			
本科	研究科	会費	延滞金	合計	延滞金	合計
1		10,200		26,200	41,000	51,200
2		10,200		26,200	40,000	50,200
3		10,200		26,200	39,000	49,200
4		10,200		26,200	38,000	48,200
5		10,200		26,200	37,000	47,200
6		10,200		26,200	36,000	46,200
7		10,200		26,200	35,000	45,200
8	1	10,200		26,200	34,000	44,200
9	2	10,200		26,200	33,000	43,200
10	3	10,200		26,200	32,000	42,200
11	4	10,200		26,200	31,000	41,200
12	5	10,200		26,200	30,000	40,200
13	6	10,200		26,200	29,000	39,200
14	7	12,200		28,200	28,000	40,200
15	8	14,200		30,200	27,000	41,200
16	9	15,200		31,200	26,000	41,200
17	10	16,200		32,200	25,000	41,200
18	11	19,200	15,000	34,200	24,000	43,200
19	12	25,600	14,000	39,200	23,000	48,600
20	13	28,200	13,000	41,200	22,000	50,200
21	14	30,200	12,000	42,200	21,000	51,200
22	15	32,500	11,000	43,500	20,000	52,500
23	16	33,700	10,000	43,700	19,000	52,700
24	17	34,900	9,000	43,900	18,000	52,900
25	18	36,400	8,000	44,400	17,000	53,400
26	19	38,400	7,000	45,400	16,000	54,400
27	20	38,400	6,000	44,400	15,000	53,400
28	21	39,200	5,000	44,200	14,000	53,200
29	22	40,600	4,000	44,600	13,000	53,600
30	23	42,900	3,000	45,900	12,000	52,900
31	24	44,200	2,000	46,200	11,000	55,200
32	25	44,200	1,000	45,200	10,000	54,200
33	26	46,200	0	46,200	9,000	55,200
34	27	47,500	0	47,500	8,000	55,500
35	28	50,900	0	50,900	7,000	57,900
36	29	54,300	0	54,300	6,000	60,300
37	30	56,400	0	56,400	5,000	61,400
38	31	57,700	0	57,700	4,000	61,700
39	32	58,300	0	58,300	3,000	61,300
40	33	58,900	0	58,900	2,000	60,900
41	34	59,000	0	59,000	1,000	60,000
42	35	60,000	0	60,000	0	60,000



▲ 池田湖開水



今昔物語

小原台



▲ 学生生活風景



▲ 横濱館中央駅前



▲ 学生食堂

